内外交差点

「政治の腐敗」とライドシェア 客観的視座から徹底的な検証を

藤井　聡氏　（京都大学大学院教授）　第５／12回

通常、日本の政治家というものは日本の国民や国家のために働くものだと我々は認識している。勿論、カネや地位や名誉に目がくらんだ俗物的精神が政治のいろいろな判断に影響を及ぼすことはあるのだということは大人ならば皆理解はしてはいるものの、それと同時に以下の３つの点程度は皆、共通認識として持っていることだろう。すなわち、第一に政治はそうであってはならず本来ならば国民や国家のためのものでなければならないという常識程度は政治家、官僚は理解しているだろうし、第二に仮に政治家には俗物が多くいたとしても官僚はそれなりに国民や国家のために働き政治家の暴走を一定抑止してくれてるだろうし、第三にどんな俗物でも政治家（さらには学者）である以上は日本の国や国民のことをわずかなりとも慮る精神は持ち合わせているだろう――という認識だ。

だから、一般の大人としてそれなりに酸いも甘いも知ったる者だったとしても、小泉進次郎氏なり菅義偉氏なり総理や総理候補にまでなった政治家や、どこそこ大学の経済学部教授らなりが「ライドシェアは必要だ」と言い出せば、その言葉の裏側にライドシェアが日本の国家、国民にとって何某か役に立つに違い無いという純粋な思いが「わずかなり」ともあるのではないかと、善意で勘ぐってしまうことだろう。

しかし、かれこれ10年以上官邸、永田町や霞ヶ関、あるいは、マスメディア関係者と意見交換や協働を重ねてきた当方としては、こうした一般の人々が共有しているであろう認識は実に「甘い」ものに過ぎぬと感じている。つまり第一に、政治とは国民国家の公益の為のものだという「建前」をすらほぼ全て忘れ去ってしまっている政治家、官僚が実に多いこと、第二に政治家のみならず官僚や学者ですら猟官活動や出世のために、俗物に堕した政治家の単なる走狗となっている者達が実に多いこと、第三に政治家や官僚、そして学者の中には党利党略以外一顧だにせぬ俗物が実に（しかも、与党幹部連中を中心に）多数に及ぶ事を、筆者は事実として知ってしまったのだ。

だからライドシェアを国内に導入する事に違和感を覚えつつも、立派な政治や大学の先生方や立派なキャリア官僚達が必要だと言っているのだから、そこには一理があるのではないかと思ってしまう一般の方々には、声を大にして言いたい。現下の日本の政治の腐敗は我々一般人の想像を遙かに上回るものとなっているのであり、彼らのライドシェア論は全て100％純然たる嘘話、詐欺話に他ならぬ可能性が大いにあるのだ。

無論それは「可能性」に過ぎない。立派な政治家や官僚、学者が皆無だというわけではない。

だとするなら、我々は政治家や官僚の主張内容を、彼らに対する信頼や不信は一旦さておき、客観的視座から徹底的に検証せねばならない。つまり彼らが言うライドシェアが日本国民にとって利益をもたらすものなのか否かを合理的客観的に真摯に真剣に考えねばならない。そしてその結果、ライドシェアに何の合理性も見いだせなかったとするなら、その時はじめて、そのライドシェア推進話は単なる詐欺話に他ならぬと断ずれば良いのだ。

そして筆者は、現下の「日本版ライドシェア」には合理性が十分宿りうるものだし、その慎重な運用改善や緩やかな規制緩和は十分に議論に値するものであるが、「欧米型のライドシェアの速やかな直接導入」に理があると述べる議論は単なる詐欺話以上のものではない（ただし、その詐欺を確信犯として述べていない愚かな論者がいることも事実だが）。

何故そう言えるのか――。この件については次回、詳しく解説することとしよう。